

日本食の総合見本市、3年連続の開催！ ～日本の食を取巻く商品をPR～

シンガポール事務所

開催期間	2014年10月16日(木)～18日(土)
開催場所	サンテック・シンガポール国際会議展示場
名称	Oishii Japan 2014
主催/後援	Oishii Japan 実行委員会 (OJ Events Pte Ltd) / 農林水産省、観光庁、在シンガポール日本国大使館、日本貿易振興機構、 日本政府観光局、日本アセアンセンター、シンガポール政府観光局 (STB)、 (一社) 日本食品機械工業会、(一財) 自治体国際化協会、北海道、栃木 県、鹿児島県
来場者数	10,110人(10月16、17日はビジネス関係者、18日は一般公開の合計)

開催年	2012年(第1回)	2013年(第2回)	2014年(第3回)
来場者数	5,096人	5,782人	10,110人

開催期間中来場者数の推移(出典: Oishii Japan ホームページ)

※開催日程は毎年3日間(2日間はビジネス向け、1日が一般向け)

今年で3回目となる日本食の総合見本市「Oishii Japan 2014」が10月16日～18日の3日間、シンガポールで開催されました。今回は展示スペースが6,000㎡となり、昨年の1.5倍の広さで行われました。参加者も32都道府県から266社・団体が出展し、過去最大規模となりました。

オープニングセレモニーでは、竹内在シンガポール日本国大使、シンガポール政府観光局 Yeo Regional Director for North Asia、JETRO 長谷部所長、福田栃木県知事等が鏡開きを行い、賑やかな開会となりました。



オープニングセレモニーの様子

各ブースには、酒、野菜、果物、和牛、和菓子、駄菓子、調理器具、陶器、カゴ等の商品が並べられており、食を取巻く様々な日本の商品が紹介されていました。特に、今年は「J-Sweets Collection」コーナーが設けられ、41社・団体が和菓子や袋菓子等のスイーツを提供し、日本のお菓子を大きく取り上げていました。農林水産省が開設したステージでは、巻寿司の作り方のワークショップや日本茶の入れ方のデモンストレーション等が

行われました。また、会場内に設けられた「J food street」では、日本のスナックを気軽に楽しんでもらうスペースとしておにぎりや抹茶ラテ、お菓子等の7店舗が出展しており、座布団に座って食べられるように設営されていました。



ステージイベントの様子

○会場を視察して気が付いたこと

- 複数の市町が共同で出展しているブースもあり、お互いに商品を補完し合うことで、PRする内容を厚くしていました。
- 自治体が出展に協力しているブースでは、観光パンフレットも同時に配られることが多く、物産と観光を同時にPRすることで効果的な出店方法でした。



袋菓子をPRするブース

• 堺市は、伝統商品である刃物を展示し、料理店経営者をターゲットに海外販路開拓と観光PRを兼ねた出展をしていました。

• 試食ができるブースには人だかりができており、特に牛肉や餃子が焼きあがると、来場者がわっと群がっていました。試食の効果は非常に大きいと感じました。

来場者数が昨年よりも増えているため、日本の「食」への関心はまだまだ高いと感じました。シンガポールではホーカーセンターでも日本食を食べることができますが（現地化されており、日本で食べるものと違いますが）、本物の日本食と言えば、寿司や焼き肉等の高級なイメージがあります。今回の会場では、おにぎりや駄菓子といった日本の大衆的な商品を紹介している点が特徴的であり、安くて美味しい日本食を知ってもらおう試みであると感じました。

（太田所長補佐 浜松市派遣）